

第 20 回防災文化講演会「災害伝承と博物館展示」を開催しました(2017/09/16)

テーマ：災害伝承、博物館

URL：<http://irides.tohoku.ac.jp/organization/kesenuma/kouenkai.html>

9月16日(土)に、気仙沼中央公民館にて、『第20回防災文化講演会「災害伝承と博物館展示」』(主催：東北大学災害科学国際研究所，共催：気仙沼市)を開催しました。当研究所は平成25年7月に「気仙沼市と国立大学法人東北大学災害科学国際研究所との連携と協力に関する協定」を締結するとともに、気仙沼分室(通称：気仙沼サテライト)を気仙沼市内に設置して、防災・減災や復興の推進に連携して取り組んでいます。その活動の一環として、防災に関する講演会を年に数回開催しています。

第20回を迎えた今回は、「災害伝承と博物館展示」をテーマに3つの講演とディスカッションを行いました。講演では、当研究所の川島秀一教授(人間・社会対応研究部門)から「災害はどのように伝えられてきたか」と題して全国で行われている年中行事を通じた災害伝承の事例について、リアス・アーク美術館の山内宏泰・学芸係長から「リアス・アーク美術館における災害資料常設展示の独自性について」と題して同館の東日本大震災に関する展示の特徴について、国立歴史民俗博物館の葉山茂・特任助教から「災害常習地の生き方を残すこと・展示すること」と題して気仙沼で取り組まれた資料保全や展示の活動について講演がありました。3講演の後は、登壇者と参加されたみなさんによる質疑応答・ディスカッションが行われました。全体進行とディスカッションは、佐藤翔輔助教(情報管理・社会連携部門)がまとめました。35名もの方々にご参加いただき、盛会のうちに終わりました。



講演①・川島秀一教授



講演②・山内宏泰氏



講演③・葉山茂・特任助教



ディスカッションの様子